

住民基本台帳 CSV データ構造変更対応委託負担金

○ 概要

消防指令センターでは、救急隊等が出場する場所を特定するために住民基本台帳の情報を使用しています。月に1回、町民健康課から住民基本台帳の情報（住所・氏名・年齢・生年月日・性別・世帯主）の提供を受け、指令システムに取込む作業を行っています。

現行の指令システムは、基幹系システムの標準化に未対応（提供を受けている CSV データの構造が異なる。）であるため、取込む側の消防指令センターで改修が必要になります。

● 必要性

119番通報で聴取した住所と住民基本台帳の情報が同じかどうか確認し、出場指令をしています。通報者は慌てていることが多く、住所を言い間違える場合があります。また、聴取している職員が聞き間違える場合もあります。住民基本台帳の情報を閲覧して照合することにより間違いを無くし、正しい場所に出場させることができます。また、火災現場では、逃げ遅れた人がいないかなど、住民の安否を確認する際にも使用しています。

● コスト

指令システムの改修は、消防指令センターで作業を行う必要があります。そのため、葉山町単独ではなく、横須賀市と協力して改修することによりコストを抑えることができます。

○ 契約

契約事務は横須賀市が行い、費用を葉山町が横須賀市に対し負担金として支出するものであり、毎年支出している共同指令センター運用管理負担金が当該事業分増額します。